

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	子ども支援センターはままつ				公表日	2025年 3月 15日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8	0	個別支援の場所と集団支援の場所が分かっている。	現状維持していきたい。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	8	0	定員に対して多くの職員がいる。	現状維持していきたい。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	8	0	個別支援の場所と集団支援の場所が分かっている。	現状維持していきたい。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	8	0	毎日掃除をしている。	環境美化に努める。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8	0	部屋はないがパーテーションで区切られている。	個室化は構造上難しく、現状維持。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	8	0	業務全般で改善策を考えている。	より一層のPDCAサイクルの推進。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	0	送迎時に保護者と会う際、意向を聞くようにし、振り返りで話している。	幅広く意見を聞けるように努める。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	0	朝礼、振り返りの機会がある。	改善へのスピードアップ。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	7	1	第三者の選定方法自体が難しいと感じる。	第三者の選定方法の検討。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8	0	虐待防止の研修などを通じ、世の中の流れを知ることができる。	研修内容を工夫していく。
適切な支	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8	0	ホームページやFacebookで公表している。	更新頻度を上げる。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	8	0	子どもと保護者のモニタリングも行われ、個別支援計画を作られている。	モニタリングを適切に行い、ニーズの把握を行う。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8	0	子ども・保護者のモニタリング、日々の支援内容などを元に支援会議で案を検討しており、職員の共通理解が計られる。	より良い計画になるため、知恵を出し合う。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8	0	個別支援計画は保護者の確認後、職員に共有される。	適切な支援の実施に努める。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8	0	5領域に沿った形でモニタリングが行われ、日々の活動の5領域のどの部分か考えながら実施している。	モニタリング力の向上を図り、子どもの状況を把握していきたい。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8	0	個別支援計画に記載されている。	個別支援計画の支援内容をより具体的に書けるように、工夫していきたい。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8	0	5領域の活動は、直接支援を行うスタッフ達が検討しあって、楽しい活動になるように努めている。	チームワーク力の向上を図る。

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8	0	毎月に直しを行なっている。	アイデアを出し合いたい。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	8	0	下校時間が異なるため、初めは個別活動を行い、子どもが集まる時間を見て決集団活動を行なっている。	個別活動と集団活動の両立を図り、より良い支援に繋げたい。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8	0	日々朝礼で確認している。	朝礼の継続。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8	0	日々振り返りで共有している。	振り返りの継続。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8	0	記録を欠かさない。	記録の重要性を職員間で共有したい。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8	0	定期的にモニタリングは行われている。	適切なモニタリング実施計画を立てたい。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	8	0	改正で「4つの活動」ではなく、中心は5領域になったのでは？	ガイドラインに記載された「5領域」を中心に考えて、支援を行なっていく。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	8	0	選択肢を増やすことが事業所の支援方針の一つにあり、常に行なっている。	自己決定できる子どもが増えるように支援していく。
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8	0	最近、サービス担当者会議を行う相談事業所が増えたようで、適任者が参加している。	相談支援事業所を動かしていきたい。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	8	0	非常に整っている。	より一層の連携を図る。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	8	0	常に行なっている。	より一層の連携を図る。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	8	0	サービス担当者会議を活用している。	相談支援事業所を動かしていきたい。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	8	0	相談支援事業所を通じて行なっている。	相談支援事業所を動かしていきたい。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	0	8	児童発達支援センターとの連携は難しい。	児童発達支援センターに期待する。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	4	4	子どもの特性を相手先に理解してもらうことから検討が必要。	交流の仕方から検討する必要がある。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	4	4	協議会に興味はあるが、開催時間は午後が多く、支援中で参加できない。	議事録等で活動は見ているが、放課後等デイサービスの事業所も参加できるようになってもらいたい。
34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8	0	送迎時に話をするように心がけている。	より一層、保護者と情報の共有を図りたい。	
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	4	ペアレントトレーニングの中身がわからない。	事業所として保護者に情報提供ができる分野を選定していく。	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8	0	行なっている。	現状維持。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8	0	頻繁にモニタリングを実施している。	適切なモニタリングの実施。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	8	0	全て同意を受けている。	分かりやすい説明に努める。

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8	0	行なっている。	随時、相談できる体制を維持。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	4	4	会の必要性がわからない。	要検討。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8	0	しっかり体制ができていると思う。	まずは、苦情が起きないように心掛ける。起きた時は、真摯に受け止め迅速に対応。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	8	0	ホームページ、Facebookに活動などをアップしている。	活動の公表頻度を上げていきたい。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8	0	十分配慮している。	個人情報保護に万全を期す。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8	0	心の天気を知っている。	意思疎通を図っていきたい。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	8	0	町内会などで地域の情報を確認できる。	防災訓練などに参加してもらうようにしていきたい。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8	0	整備されている。	マニュアルを活用し、訓練を確実に実施する。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8	0	整備され、訓練している。	適切な訓練の実施に努めたい。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	8	0	契約時に実施されている。	適切に把握にする。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8	0	契約時に実施されている。	適切に把握にする。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8	0	整備されている。	安全計画に基づく、支援の実施に努める。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8	0	実施されている。	安全計画の周知の仕方（LINEの活用）を工夫する。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8	0	ヒヤリハット集がある。	ヒヤリハット集の保管の仕方と活用の仕方を工夫する。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8	0	年に複数回、行われる。	支援に役立つ研修内容を今後も検討していきたい。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	8	0	規程に示されている。	身体拘束は行わない。	